

老爺が見る夢

中西卓@岡山

ガザ地区の子供達は今どんな夢を見ているのだろうか、壁の外のユートピアを見せてやれるものならと思う。私が見る夢は実現が不可能ではないのに思うようにならない、生きてるうちに道だけでもつけておきたい幾つかの夢を次に並べてみる。



① **吉井高原**に夢を馳せる：2万5千分の1地形図やなほら柵原に「吉井高原」と記される標高400m余り7ha超の緩い南向き勾配の高原であるが、大部分が自然のままである。広報あかいわ・R3/6月号のコラムで紹介された「吉井高原 是里森林公園」の記事で、様々な動植物が棲む豊かな自然環境であることがわかる。経済優先の世なれば、遠くの大資本でなくても地元行政の開発志向が気になる。大自然を壊さないで、土壌と気候に合った高原野菜や果樹栽培、国内外からの移住者を迎える「里」になればと思う。

2週間前、高原の外縁で「これさとオーガニックファーム」を営むKさんを訪ねた。山を拓いて住まいと圃場を築き、電気と飲み水以外はすべて自前で賄う。家畜糞尿に糠を混ぜて発生させたバイオガスでの炊飯には驚いた。更に、Kさんは「ネパールやぎの会」*を主宰しておられ、奥の別荘(写真)で20人程が集う、囲炉裏を切りオンドル暖房の心遣いに感服した。



この体験から、ひと月前に発信した拙稿「是里高原をリゾートの里に」が浮足立った夢に過ぎないことを反省、前進を止めて出直すことにした。

* **ネパールやぎの会**：39年前に医師やマスコミ関係者らの活動で発足。92年1月現在36人、Kさん宅に事務所を置く。ネパール住民に自立のための山羊の飼育・経済自立支援と農業指導を続けている。このごろ思うこと(Ⅲ)に述べたYさんも会員であることがわかった。

② **桜が丘中央の未利用地の緑化**：昨年8月の拙稿「桜が丘中央の未利用地について(私案と相談)」で団地の真中にある6千坪の空地进行緑化する発想に賛同者が少なく躓いたが、温暖化抑制をSDGs実践の理念を掲げて諦めていない。行政と議会(市議)が無関心であるが、岡山にもあった河川の氾濫を忘れてはならない。

③ **桜が丘の保健保安林を生き返らせる**：団地周囲にある大小11の池を囲む保安林が50年も放置されている。住民の手入れで、10年・20年かかっても親水公園にできないか。拙稿「桜が丘に緑と水を」に詳述。

④ **生ごみの燻溜処理**：Dr.矯学真が考案し日本特許を取得した生ごみを燻して処理する画期的なごみ処理方式。テストプラントでプロセスを実証済み、連続運転・スケールアップが必要だが資金難で中座している。地元農機メーカーに働きかけたが、プラントを手掛ける気がない。実現すれば、地方のごみ処理を画期的に改善し、自然農法にも寄与する筈である。興味ある方に矯氏作成の「燻ちゃんプロジェクト(要旨)」を読んでもらいたい。氏は自作農園でこれを実践し、大根や菜っ葉を折々いただいている。矯さんとは、十数年前に岡山市東部クリーンセンターにあるエコ技術研究会(エコ研)に参加した仲間で、唯一の外国人学者である。

12/19生まれで昭和1桁駆け込み老爺である私の夢は はかない夢 で戯言に過ぎないかもしれませんが。長生きした分経験豊かと自認していましたが、今回是里に5年若いKさんを訪ねて、人生観に響くものがあつたようにつくづく思う昨今です。

(おわり)

燻ちゃんプロジェクト(要旨)

—生物系廃棄物における炭素窒素貯留および腐植化技術 ※1

Carbon and Nitrogen Sequestration and Humification Technology on Biomass Waste

生物系廃棄物における炭素や窒素、ミネラルを貯留し、腐植化して土壌へ還す技術が開発された。これは生ごみや汚水汚泥等の廃棄物の新しい処理法で、従来の埋め立てや堆肥化、焼却とは異なる方式である。廃棄物は、燻留窯や凝縮器、熱風炉等を組み合わせた「低酸素熱風密閉式循環システム」に基づいて「燻留 - 凝縮」工程で処理し、燻留窯で燻留乾燥や殺菌消臭、固液分離、腐植化・無機化される。燻留窯の燻煙は大気へ排出せず、燻煙の中の蒸発液は凝縮器で気液分離、凝縮回収され、「生物酢液」に製品される。一方、燻し乾いたバイオ資材は炭素や窒素等が貯留され、しかも炭水化物やタンパク質などが分解され、腐植化・無機化され、「腐植素」(炭素窒素剤や腐植栄養素)に製品される。循環型社会にふさわしく排ガス、排水なしで、「生物酢液」と「腐植素」が産物である。

この燻す生ごみ処理法では、ダイオキシンや温室効果ガス、有害物質のゼロエミッションを実現し、生物系廃棄物の炭素や窒素、ミネラルなどの栄養元素を100%生態貯留し、土壌に還すことでその物質生態循環が生かせ、土壌を肥やし、土壌有機炭素貯留量を増やすことができ、地球温暖化の防止、継続的な開発をすることを促進できる。

この「炭素窒素腐植化技術」により、地球の環境に対して人間の悪い影響を基本的に消去でき、オゾン層破壊や地球温暖化、大気汚染、水汚染、土壌汚染、土壌肥沃度低下、土地砂漠化、資源の枯渇、エネルギー危機、食品安全などの環境問題をすべて解決できる。これは環境・土壌・エネルギー生態発展技術である。

生ごみの新しい処理方法とシステムとして、初期建設コストは焼却処理の15%以下である。

※1 矯学真, 矯学成, 池田捷, 「生物体廃棄物における物質循環技術及び設備」, 日本特許庁への特許出願中, 特願 2011-103915. 2011年5月8日



燻ちゃんプラントー1号機



燻ちゃんプラントー2号機

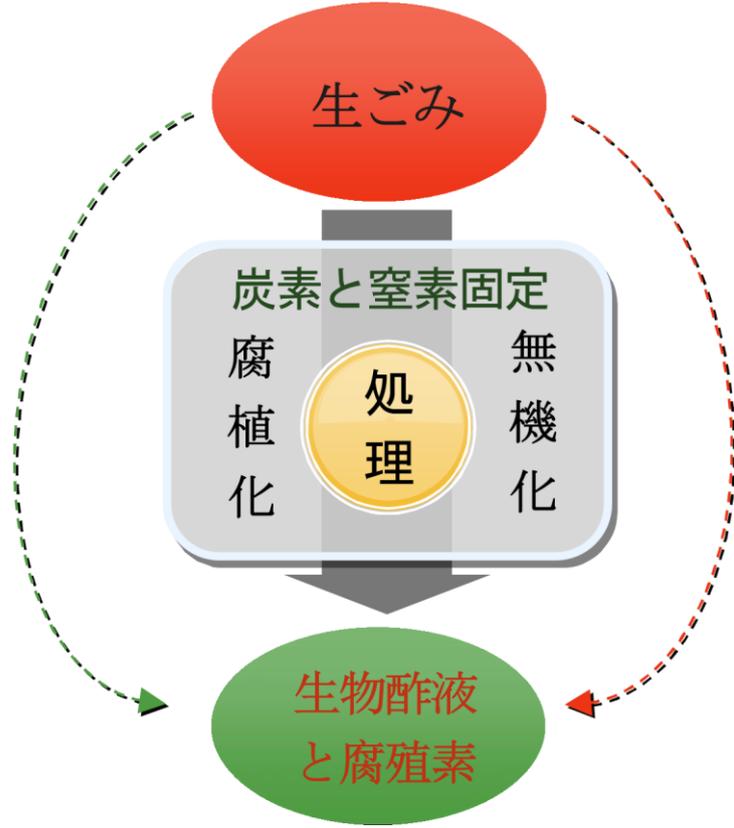


燻ちゃんプラントー3号機

2011年4月完成

2011年9月完成

2012年9月完成



生ごみの例



生物酢液 + 腐植素



粉碎



生物酢液



腐植素



「燻ちゃんプロジェクト」メンバー



腐植素の比較実験1



腐植素の比較実験2